

◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

23A-46

代表者：理事長 小川 早枝子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

上尾と桶川の市境を流れる江川最下流のサクラソウトラスト地では、荒川太郎右衛門自然再生地、三つ又沼ビオトープ、サクラソウトラスト地などの荒川中流域エコロジカルネットワークの自然の質を高めるために必要な湿性植物の増殖に取り組んでいる。荒川の自然を代表するサクラソウ群落は、ノウルシ、サクラソウ、チョウジソウ、ノハナショウブなどの荒川の代表的な絶滅危惧種で構成されるが、サクラソウトラスト地に自生するこれらの植物を増殖して、荒川中流域の自然の質を高めるために役立てようという取り組みである。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

この荒川の代表的な植物を増殖するためには、サクラソウトラスト地の自然を維持することが第一義である。現在、サクラソウ群落増殖の障害となっているのは、外来種の繁茂であり、その駆除作業は最重要である。次いで、気候変動により、ツル植物の繁茂が激化していて、このコントロールに追われている。これらの作業は、冬期をのぞき年間を通して取り組まれている。また、秋からのヨシ刈り、刈り草の始末等が必須である。また、希少種の増殖作業として、種まきや植え替え、定植等があり、年間を通して取り組んでいる。

3. 活動の成果

本年2月24日に、7種類の増殖した希少種を川島町立北つばさ小学校の4年生と共に太郎右衛門自然再生地の一部に移植した。今後も、この活動を継続する予定である。

4. 今後に残された課題

これら希少植物は、もともと農作業のなかで残された自然である。農業の衰退と共に激減した植物たちの維持管理活動・増殖活動は、厳しさを増している。多くのボランティアの協力が必要であり、ボランティア活動参加要請を活発化する必要がある。



トラスト地の維持管理活動は多大な労力が必要であり、ボランティアの参加でほとんどの作業が取り組まれている。



在来の希少動植物を保護するためには外来種を駆除しなければならない。上尾領家工業団地からの定期的な応援で大助かり。